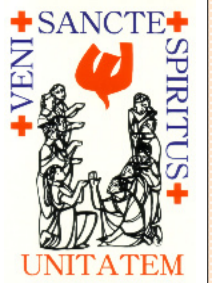


2022年11月13日 (第210号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック 高松教区報

マザー・テレサの言葉
短くて口に出しやすい言葉でも、心のこもった言葉はある。そんな言葉はいつまでも心の中に輝き続ける。

使徒ヨハネ 諏訪榮治郎司教退任

高松教区司教として目指していた 宣教司牧の思い

諏訪榮治郎司教

私が東京カトリック神学院に入学したのは1966年(昭和41年18歳)、それは第二バチカン公会議が終了した翌年でした。この公会議は時代と社会が求めていることに応えるべく、巨大な船(教会)が舵を切つて方向を変えようとした会議だったのです。心を弾ませ入学した神学院生活だったのですが、そこは何もなかったかのようトリエンツト公会議(1545)の精神を生きたことが養成の中心でした。言い換えると神学院は「規則を守る」ことを第一義とし、気づかぬうちに私たちは立派な「フアリサイ人」になっていったのです。5年が経ち、さすがに神学院の養成方針も変わり、第二バチカン公会議の精神、「掟」より「福音」を生きた息吹が神学院に吹き始めました。私たちの学年は「過去の信仰教育」と「新たな霊性」をあわせ持つことになり、当時の教会にはそれが必要で、神様から与えられた「役割」として「愛の宣教」を証しされたのです。司教団はそれに応えるべく「日本の教会の基本方針と優先課題」を公にしたのです(1984)。その中に「福音

が自覚していたように思います。実のところ当時の日本のカトリック教会は第二バチカン公会議をあまり理解していなかったのです。それを心配した時の教皇ヨハネパウロ二世は日本を訪れ(1981)教会を励まし、続いて聖マザーテレサも来日され「愛の宣教」を証しされたのです。司教団はそれに応えるべく「日本の教会の基本方針と優先課題」を公にしたのです(1984)。その中に「福音



「福音のよろこび」邦訳を教皇に渡す



愛媛での司牧者ソフトボール大会、浜口司教へプレゼント

空位の中の教区管理者は イスマエル・ゴンザレス神父に

宣言をもって任命いたしました(2022年10月31日)。

諏訪司教の司教職引退に伴い(2022年9月26日)、教区顧問会は、教区の統治権をもつ「教区管理者」としてイスマエル・ゴンザレス神父(坂出教会)を推薦し、同師の信仰



司教座の空位にともない、これまでの司教評議會は消滅し、その任務は顧問団によって代行されます。次期司教は着座から1年以内に司教評議會を設置することになります(教会法501条2)。

諏訪榮治郎司教の経歴

生年月日: 1947年(S22年)7月8日(現在75歳)

(学歴)
1977年3月 東京カトリック神学院卒業
(叙階)
1976年11月23日 大阪教区司祭・叙階
田口枢機卿



神学生3年時

(宣教歴)
1977年4月 園田教会 英知大学
1979年4月 香里教会
1981年4月 夙川教会
1982年4月 大阪カトリック神学院院長
1989年4月 高槻教会
1977年~1994年 大阪教区内ミッションスクール宗教科講師
1995年3月 阪神淡路大震災 住吉教会
1997年4月 中山手・下山手・灘教会
カトリック社会活動神戸センター長
1999年1月 神戸中央教会
(神戸東ブロック共同宣教司牧チーム)
2005年7月 高松教区 江ノ口教会
宣教司牧チーム

2011年6月19日 カトリック高松司教区・司教叙階
2022年9月26日 司教職退任



七五三の祝福



番町教会での平和コンサート

宣教推進全国会議」の実施計画がありました(英訳の頭文字をとって「NICE・ナイス」と呼ばれました)。事前準備をもって「開かれた教会」をテーマに全教区から信徒、修道者、司祭の代表が一堂に集まりました(1987・1993)。画期的な「ナイス」は「開かれたキリストの教会」になるために次の「3本柱を調和して生きる教会」の姿を明確に打ち出したのです。柱1「生活に根づいた信仰」、柱2「福音宣教する共同体」、柱3「社会の現実と共に生きる教会」、これによりすべての教区が「3本柱」を生きた「教会づくり」に向け動き出しました。そんな中1995年、直下型大震災(阪神淡路大震災)が起こり、神戸にある教会は現地の救援本部となり、復興支援活動と「教会づくり」を重ね合わせ、多くの方々と出会いを通して、福音がたどった10年は司祭として幸いなことでした。その流れの中で、高松教区に派遣されたこと(2005)を神の計らいと感謝しています。「ナイスの3本柱を生きた「ダイナミックメモリアル」」「福音マーケット」などの養成コースとともに歩ませてもらいました。社会の中で多くの人々とともに「開かれた教会」づくりの途上ではありますが、司教として皆さまと共に歩むことを心から感謝申し上げます。ありがとうございます。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

はばたき

瀬戸内国際芸術祭の大島会場に出かけた。お目当ては鴻池朋子さんの作品「逃走階段(エスケープブルート)」。ハンセン病療養所大島青松園のある大島は、高松市屋島の鼻先に浮かんだ小島である。ここには、昭和8年に若い患者たちが作った1.5キロメートルの散策路「相愛の道」があり、「逃走階段」は、その道から崖下の浜へ降りる石組みされた階段で、閉じようとする島の地形から生き延びるための新たな道を表現している。「相愛の道」を切り開いた患者たちにも、島という拘束された場所から自力で道を切り開くという思いがあったという。

大島での逃走は開所以来珍しくなく、風のない海の静かな晩は「逃走日和だ」と挨拶代わりになっていたこと。しかし、屋島の鼻先とはいえ離れ小島である。逃走方法は、小舟を盗むか、昼間に近くの漁民にお願いして夜に迎えに来てもらうか、自力で海峡を泳ぎ切るか、3つのうちのいずれかだった。作品から何を受け取れるか・・・暗闇で道なき崖を降り、砂浜で船を待つか暗い海に飛び込むしかなかった患者達の気持ちを想像するのは難しいことだったが、こわごわ崖の階段を降りた時、降り際に崖の上から波打ち際を見下ろした時、少しだけ、離れ小島に閉じ込められることのない安・恐れを感じた。

諏訪司教様へ たくさんの感謝を込めて

「オヤジさん」のよう」

番町教会担当司祭 高山 徹
「高山さん？」それが、当時の
の教区養成担当だった諏訪司教
様が、神学校入学前の私に最初
にかけて下さった言葉でした。

実は初めて司教様にお会いした
のはもっと以前—2005年、
私がまだ大学生だった頃、仙台
教区の仲間たちと高知の中島町
教会での青年の交流会に参加し
た折—でした。それからの17
年の月日は、諏訪司教様の四国
での17年と重なります。さら
に今から40年以上も前に私の
家族が職場で、司教様のご指導
を頂いたことがあったことを伝
え聞き、御摂理を感じずにはお
れません。

2011年、諏訪司教様が高
松教区の司教となられた頃、私
の教区神学生としての志願手続
きが始まりました。司教様は、
「神学校に推薦するために、あ
なたについて教えてください」
とおっしゃって、熱心に私の話
を聞いて下さいました。そして
「うん、あなたに召命がある気
がするわ」と言われました。た
だ、これからの歩みについては、
「あなたは、”べっしゅんこ”
に漬けてしまふ体験を必ずする
でしょう。でも、”べっしゅん
こ”になった紙の裏と表のごと
く、その体験を通して恵みも知
るでしょう。」と諭して下さい
たのです。

その後の私の歩みは、神学生
時代も叙階後も、果たして司教
様の言われた通りになりました。

その時その時、いつも司教様は
私を見守って下さいました。司
教様は教区の様々な課題解決の
ために尽力されましたが、まだ
まだ未熟な私は助けとなること
ろか心配をかけてばかりだった
と心から申し訳なく思っており
ます。また、「のんびり屋」の
私は歯がゆい思いを司教様にさ
せてしまったのではないかと反
省することしきりです。司教様
は、「こういう言い方は何です
が」「オヤジさん」のように、
私を叱り、励まし、忍耐をもっ
て受け止め、様々なことを教え
て下さいました。心から感謝い
たします。本当にありがとうございます
でした。

最後になりましたが、司教様
は阪神淡路大震災で被災された
際、多くの被災者の方々に寄り
添い、復興のためボランティア
の人々と共に率先して働かれた
と聞き及び、諏訪司教様のダイ
ナミックな一面を垣間見る思い
です。どうかこれからも、司牧
者として引き続き私たちと共に
いて、知恵を授けてください！

忘れ得ぬお姿

宇和島教会 一信者
2018年7月の西日本豪雨
災害は南予地方に深い爪痕を残
しました。

当時の宇和島教会担当司祭の
ヨゼフ郷文成神父は直ちに現地
(吉田町)入りし、大きな被害
を被った信徒宅を訪問し、諏訪
司教様に報告した。諏訪司教
様は3月に司祭に叙階された高

山神父を伴って、すぐさま信徒
K氏宅に開設されたボランティア
アベースを訪れ、被災した信徒
に会って力づけ、カリタスから
の義援金が届くよう計らって下
された。その信者のご長男は心
を動かされ、ミサの侍者を務め
るようになり、助けられた恩返
しをすべく自衛隊に入り、災害
派遣などに貢献するための研鑽
に励んでいる。

思えば、1995年阪神淡路
大震災の時も、当時神父として
大阪教区におられた諏訪司教様
は、神戸市の3つのカトリック
教会の復興のために、靴を何足
も履きつづしながら歩き回り、
信者を力づけ、絶望に陥らない
よう日々祈っておられた。

傷ついたり重なることなく、
暗くなつてゆく灯心を消すこと
なく、信者の心が神さまから離
れないようにとの諏訪司教様の
思いは、高松教区長になられて
からも全く変わることはなかつ
たと思われる。弱っている方々
に常に寄り添い、また大きな行
事がある時には、皆の心がバラ
バラにならぬよう、常に主にあ
る一致を説いて下さった。

ご聖体拝領のあとに、いつも
述べられた「ここにはイエス様
しかおられません。」というお
言葉に思い起こし、被災され
た信者の手を握り、共に祈ら
れたお姿を忘れないようにした
い。

諏訪司教様に感謝

江ノ口教会 井戸瑛子
11年間に及ぶ司教職の激務
をこなされました。ありがとう
ございました。その司教職に先
立ち、高知地区長として又カト
リック江ノ口教会担当司祭とし
て2005年より5年間司牧し
て下さいました。

高知着任後間もなく当時の諏
訪神父様は「聖書・信仰講座」
を江ノ口教会に開講されました。
私はその講座に第2回目から参
加致しました。当時私はまだ未
信者でした。未信者でありその
上勉強不足であるが故に、理解
できない事柄が多々ありまし
たが、嬉しいことに質問の時間
を頂けました。質問を大歓迎し
て下さった事をしっかりと記憶し
ています。お答えは私のような全
くの初心者でも理解できる程度
から始められ、さらに発展させ
てのものでした。私にはその発
展回答が難しい事が度々ありま
したがそれでも感謝でした。そ
の講座の始まりと終わり時には
皆で聖歌を歌う事が常でした。
流れるようなギターの色色に伴
われて私達は歌いました。勿論
奏者は諏訪神父様(当時)です。
私達は導かれて歌えました。

「テゼ」もしっかり教えていた
だけでした。やがて私の突然の
受洗願いにも拘わらず諏訪神父
様(当時)は即座に行動、あっ
という間に無事に洗礼式に導い
て下さいました。



ここにいらっしゃるイエスとともに

信徒達のただ中でキビキビ活
動されていたお姿も思い出され
ます。目の不自由な方を講座後
送り届けられていた事、同じよ
うな行動が出来そうな人に別の
人へ援助のお願いをされていた
事、絵手紙教室に積極的参加を
されていた事、制作されながら
参加者との会話を楽しまれてい
た事。作品はシンプルであった
かみのある画風でした。

「歌うこと」は「祈ること」
です、と勉強な私は、後に知
りました。司教様として江ノ口
教会で何度かミサ司式をされた
折、聖歌、お唱え、合間から静
かに祈りの空気が伝わりました。
落ち着かれたら小さな教会に
住み、祈りの巡礼者のように
(テゼの祈り等を通して)四国
をめぐる司牧活動を考えられて
いる、とお聞きしました。お待
ちしています。

一人一人の思い出

小豆島教会では、昨年10月
から半年間、入院された松永神
父様に代わって、司教様が来て
下さり、私たちにとても大きな
お恵みでした。感謝をこめて、
一人一人が思いを書き添って送
ります。◎ギターの名手司教様の
伴奏で、一緒に歌わせて頂いた
かったです！◎自転車をごいで
いらした姿、ご自分で造られたす
ばらしい自転車！カッパよって、
若い印象。◎お洒落な司教様で
ギターもとても上手です！◎世
界の出来事についてお話を聞
かせ下さり、よく理解できまし
た。教会は人の心を救って下さ
る場所と思いつつ、いつもミサ
に来させて頂いています。◎司

教様とはゆっくり話す機会がな
かったのですが、ミサの後オラ
トリオに行く時、いろいろお話
ができて、すごくやさしい司教
様だとうれしく思いました。◎
ユーモアのある接し方、話し方
にホッとする時もあり、でも難
しい教え、考え方にはなかなか
理解できず…。でも感謝です。
◎分かり易い説教をありがとう
ございました！再会を是非！◎
特に去年の堅信式では、子ども
たちのためにありがとうございます



多田俊輔君、宗輔君の堅信式

ました。◎ミサに飢え、心が渴
き切った私達。司教様のミサは
喜びに満たされ、どんなに癒さ
れたことでしょうか。又、ギター
を弾きながら、歌われる魅力的
なお声、是非もう一度拝聴した
いものです。◎洗礼を戴いて日
の浅い私は、福音マーケットで
考える事を教えていただき、教
区大会で、他人の為に祈る事を
教えていただきました。◎優し
く話しかけて下さって、握手
してくださったこともあり、と
てもうれしかったです。◎シノ
ドスの分かち合いの最後に、司
教様は、「みなさんは、一人一
人旅をして、ここまで来たんで
す。そして、旅の終わりは誰に
もわからない。ただ、今この教
会で共に旅をしていることをた

いせつにしてください。」と言
われました。
私たちは今、司祭不在で物置
みになった司祭館を、みん
なでワイワイ片づけています。
共に旅をすることは、苦勞もあ
るけど、楽しいものですね。

思い出のスナップ写真



丸亀教会 太田 修

平成27年3月14日(土)午
後6時から、丸亀カトリック教
会に於いて各小教区担当司祭及
び各教会から参加した信徒が列
席の元、諏訪司教様から荘厳な
司式の中で次の方々が任命され
る事で教会は直接、依存症当
事者の助けになる事はできなく
ても、次に繋げる窓口の一つに
なる事はできるかもしれないと
いう事に気づきました。またダ
ルクの具体的な活動内容を知る
事で、信仰を持って生きる私た
ちとよく似ている一面がある事
を知る事が出来ました。また私
たちはダルクを支援するだけで
はなく、教会清掃等でダルクに
助けてもらう事で共に生きる仲
間になれたらと思っています。
諏訪司教様が繋げて下さった
ご縁で教会と社会の繋がりにつ
いて考え、祈り、行う事の大切
さを教えて頂いたと思います。
2年前に司教様にも名称決定に
参加して頂いたカフェスタイル

教会学校教師研修会が高知で開
催された時、高知駅まで車で迎
えに来てくださり会場まで送っ
て頂いたのが初めてお目にかか
ったと思います。とても気さくで、
関西弁の司教様に親近感を覚え
ました。

諏訪榮治郎司教様の教え

松山教会 岩本麻里子
諏訪司教様が高松教区に來ら
れて高知で司牧されていた頃、

また子ども集い等での子ど
も達に接する姿も思い出されま
す。それから数年後、高松教区
司教に着座されてからも松山に
來られた時など以前のままの気
さくな司教様にお会いできてと
てもうれしく思いました。そん
な中で私が諏訪司教様に教えて
頂いたことは、社会の中でカト
リック教会の役割とは何かとい
う課題に気づかせてもらった事
です。8年前ですが、諏訪司教
様のご紹介で香川ダルクの代表
が松山教会を訪ねて来られまし
た。これをきっかけに松山教会
はダルクと関わる事になりました
た。その活動の中でダルクに繋
がりたいと教会に電話があった
り、訪ねて来られる方の対応を
する事で教会は直接、依存症当
事者の助けになる事はできなく
ても、次に繋げる窓口の一つに
なる事はできるかもしれないと
いう事に気づきました。またダ
ルクの具体的な活動内容を知る
事で、信仰を持って生きる私た
ちとよく似ている一面がある事
を知る事が出来ました。また私
たちはダルクを支援するだけで
はなく、教会清掃等でダルクに
助けてもらう事で共に生きる仲
間になれたらと思っています。
諏訪司教様が繋げて下さった
ご縁で教会と社会の繋がりにつ
いて考え、祈り、行う事の大切
さを教えて頂いたと思います。
2年前に司教様にも名称決定に
参加して頂いたカフェスタイル

のオアシスも出来ました。教会は信者だけでなく、神様に導かれた人が気軽に来られる場所になっていけたらと思います。諏訪司教様もこれからお時間ができたら是非、松山教会に「遊びに来てください。お待ちしております。」

諏訪司教様に温かく見守っていただきながら歩んできた西条教会とこれから

10月2日のミサの後にフェルナンド神父様から諏訪司教様が退任されるというお話を聞いて西条教会が驚きと悲しみに包まれました。

私が西条教会に通うようになって10年が経ちますが、その間に私の家族、そして教会に通う信徒全員を愛で包んで下さった司教様、そして西条教会が耐震問題に直面し建て替えが必要になった時に、西条教会に来て親身になって相談に乗って下さった

た司教様、コロナ渦の中でたくさんのメッセージを発信して私たちを元気づけて下さった司教様。

西条教会にとって司教様は常にそばにいて下さり、西条教会として信徒の家族を暖かく見守って下さる素晴らしい Father でした。

さる9月11日に諏訪司教様が来てミサをして下さるという事で信徒全員で喜んでおりましたが、西条教会建て替えの際に聖堂がいっぱいになることではないよね、いっぱいになったら嬉しいよね、それが夢だよと皆で話をしたことが一瞬で叶いました。フィリピンの信者さんが大勢来て下さり、全員座れないほどお聖堂が一杯になったのです。私たちのささやかな夢がかなった一日となりました。

西条教会は、小さな教会なのでこれまで大きなことはできていませんが、司教様に見守っていただいたおかげで明るく楽しんで



22.3.20 献堂式のミサ



13.11.10 堅信式



19.8.4 ご来西時のお茶会



22.9.11 ご来西時のミサ

いろいろな問題を前向きに乗り越えてこられたのかなと思っております。これからも少しずつ成長していく西条教会を温かく見守っていただけたらと思います。

諏訪司教様

スカウトたちにも分かりやすく

番町教会 八尾憲治
私が、初めて諏訪司教様にお会いしたのは、大阪教区から高松教区にいられた時でした。それから、司教様はすぐ高知に赴任されました。その時、ホイイ

地区・ブロックの話題

愛媛地区

宇和島・八幡浜教会
2022年9月4日(日)、高松教区長使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様をお迎えし、愛媛地区南予ブロック宇和島において、八幡浜教会との合同の堅信式・初聖体の秘跡授与が行われました。この9月26日に、教区長を退任された諏訪司教様にとって、最後の堅信式となりました。

6名の堅信の秘跡と、5名の聖体の秘跡を受ける方々が、諏訪司教様からお認め頂き、秘跡の恵みに浴することができました。中には大きな苦難を乗り越えてこの式に臨んだ青年もおられたので、喜びはひとしおと思われました。

スカウトで、青春切符で四国一周の旅をするという過酷な計画が浮上りました。高松から普通電車で、昼夜かなりの時間乗り続けるというものです。私は、サポート役を買ってでて、中間地点の高知でゆくりさせたいと思い、事前に諏訪神父様に、江ノ口教会のはまゆう会館に泊まらせていただけるようにお願いしました。快く了解を頂き、当日は朝早くに高知に行き、疲れたスカウト達をもてなすために、はまゆう会館での宿泊や高知名物の皿鉢料理などを準備しました。翌朝、中島町教会に

おられた諏訪神父様が、わざわざスカウトのために江ノ口教会に来て下さり、ちょうどその日がクリスマスだったこともあって、スカウトたちに「イエス様が、なぜ馬小屋でお生まれになったのか」という話をされました。スカウトは皆未信者だったので、やさしくわかりやすい言葉を選んで話されました。誰もが来られるようにと、あえてみすばらしい所でお生まれになったという話を聞いて、スカウトたちは、よりイエスさまを身近に感じたと思います。諏訪神父様が、高松教区の司教にな

られると聞いて、私たちスカウトは、より身近に感じることにできる司教様という思いがしました。それからは、毎年、CBS(カトリックボーイスカウト)の高松教区支部総会にも参加していただきました。

今年、番町教会の評議会議長となつてからは、コロナ禍でのミサのことや、番町教会100周年記念ミサ、その他のいろいろな事を相談しに行き、少々？困らせたことと思います。これからも、お元気で。そして、たまには飲みに行きたいなと思っております。



今はなき聖堂と今はなき司祭とともに

『わたしは弱いときにこそ強いられます。』(コリント第12章10節)という聖書の句を思い起こしました。

南予ブロックの担当司祭であるアシジのフランシスコ申繁時神父は、昨年、11月に創立100周年を迎えた宇和島教会と創立86年の八幡浜教会と、いずれも長い宣教の歴史を有する両協会が、息切れすることなく持続的に宣教の恵みに預かるよう、様々な指導を下さっています。シノドスに向けた意見の集約や教会行事の活性化、聖書の学びの深化、日曜学校の再興などです。信徒の積極的な参加を求めるとして教会の一員としての自覚を促し、次世代への円滑な橋渡しができるようにとの配慮です。

この堅信の秘跡は、当事者の方々にはもちろんですが、共同体にとっては、「信仰を

お伝えすることができました。教区最後の堅信式となったことは、神さまの計らい以外の何物でもなく、心からこの恵みに感謝したいと思えます。そして、これからも諏訪司教様がご健康で、私たちの傍にいて下さることを願っています。

新居浜教会の改築

新居浜教会聖堂と幼稚園舎の改築経過と見通しは、次の通りです。2022年5月1日のミサが旧聖堂最後のミサとなりました。この日記念撮影が行われました。5月8日以降は、新居浜修道院で日曜日朝9時30分より主日ミサが行われます。毎日の早朝ミサは、6時30分です。フェルナンド神父さまは、近くのマンションから司式に向かいます。小教区事務機能も同マンションに仮住まいです。今後は、2023年3月末に司祭館と聖堂跡地に園舎が完成し、園



ありし日の懐かしい新居浜教会聖堂と園舎

西讃ブロック

ここから新たな堅信式

丸亀教会 太田肇子
令和4年10月16日(日)丸亀教会においてミサの中で、丸亀教会、善通寺教会から6名の方々が諏訪司教様から堅信式を授かった。善通寺教会からは歌川誠一さん、丸亀教



これからの信仰生活の上で、改めてカトリック信者としての自覚を持ち豊かな人生を歩んで頂きたいと思えます。

新典礼への取り組み

新しい式次第によるミサが、待降節第一主日から始まります。小教区での準備状況をいくつか紹介します。

番町教会

10月2日ミサ後テキストとして「祈りの手帖」を基に、主に変った箇所を読み合わせをしました。時間にして15分位なので詳しい説明はありませんでした。今後ミサ後に高山神父の説明がある予定です。

三本松教会

毎回のミサ後に10分程度、西川助祭が解説をしています。

桜町教会

森神父が、説教の際、式次第が新しくなった理由などを説明(広報誌に掲載)されました。ミサ式次第冊子を信徒全員に配布して、11月6日ミサ後に全員で読み合わせします。

小豆島教会

11月第一日曜日ミサ後に高山神父から説明を受け、みんなで読み合わせる予定です。

松山教会

10月までには定着した勉強会はまだ行っていないですが、11月6日(日)10時から川上神父から新しいミサの説明会があります。

道後教会

11月20日(日)ミサ前に「ミサ式次第【会衆用】簡易版」を使って、ミサの流れを司祭から解説していただく予定です。

今治教会

8月28日(日)から主日のミサの前に15分くらいの研修会を行っています。

新居浜教会・西条教会

新居浜教会では、現在評議会が検討を重ねており、「ミサ式次第【会衆用】簡易版(光明社)」に第二奉献文を印刷して末尾に挟み込み、10月23日(日)ミサ後に、これを用いてガイダンスが行われる予定です。西条教会には毎週木曜日フェルナンド神父が滞在されています。

尚、新居浜教会と隣接する愛光幼稚園は、現在改築中にあるため、多忙な中での新式次第ガイドブックとなっています。

宇和島教会

10月2日のミサ後に1時間を取り、申神父から丁寧に変更に至る経緯と変更箇所が説明がありました。待降節からの新しい典礼が楽しみになりました。

八幡浜教会

9月11日(日)ミサ後に申神父から1時間ほど改正点について、説明があり、10月8日(土)夕方の主日ミサ前に信者会で読み合わせをしました。

今治教会

日本人の信者は「ミサ式次第【会衆用】簡易版(光明社)」が共同体から配布され、「キリストとわたしたちのミサ・新式次第版(サンパウロ)」を各自が購入しました。また典礼担当者用には「ともにささげるミサ：新訂版 ミサ式次第・会衆用(オリエンツ宗教研究所)」を配備しました。

またベトナム人参加者のためには、CTICカトリック東京国際センターから11月に発行されるベトナム語新しいミサの式次第を入手予定です。

尚、高松教区からは「新しいミサの式次第と第一〜第四奉献文」の変更箇所が配布され、参考としています。

番町教会創立百周年記念ミサ行われる

10月8日、諏訪司教司式により、番町教会創立百周年記念ミサが執り行われました。ブロック内外から約百人が参加し、共にミサを捧げました。また、会議室には沢山の写真が飾られ、番町教会の歴史が紹介されました。

番町教会百周年に寄せて

佐藤万里子

多くの方々の熱意と周到な準備で百年記念の行事、ごミサを無事に終えられた事を有難く思います。私は番町教会に通って10年にも満たないので、この文を書くのに適任だろうかと思いましたが。

私が初めて教会に行った時に優しい笑顔で「ようこそ!」と近付いて下さる信者さんがいらっ

しなさい」と励まされる気がいたします。

当日のごミサではお聖堂で祈られた方々の歴史の重さを感じて身が引き締まりました。

新しいページをめくって、日々祈りそして皆さんを積み真理を求め先輩方と共に、変化する時代の中で生き続ける教会の道を探して行けたらと思います。

番町教会百周年をお祝いして

片山弘子

好天に恵まれた10月8日、番町教会創立百周年記念ミサが行われました。お祝い行事の序章は、実行委員の方々が集められた数々の歴史ある写真や資料、又ゆかりの方々のお話を編集された力作の記念誌でした。戦争など様々な困難を乗り越えら

れた先人のご苦勞、ご努力があったこそ今日がある、と感謝の気持ちを新たに致しました。当日展示された写真や資料、ホイイスカウトの活動の歴史などを興味深く見せて頂きました。

記念のごミサは諏訪司教様の司式のもと司祭団の皆様、県内外から信徒の皆様を大勢お迎えして厳かに執り行われました。司教様の「百年は長く感じられますがキリスト教二千年の歴史を思う時これはまだスタート、教会活動の存続こそ大切です」とのお言葉には私達信徒の今後の責任を痛感いたしました。

この日を何より楽しみに待っていたらした松永神父様とご一緒にお祝いできなかった事が本当に残念でした。私達は「コロナがなければ・・・」とつい愚痴っ

てしましますが「しょうがないねえ」と仙人の笑顔で微笑んでいらっしやる神父様が思い出されました。荘厳なごミサ、豪華なお花で飾られた教会、沢山の写真、豪華にレイアウトされた神父様のコレクションのアイコンなど天国からご覧になって下さ

いましたか?「皆よくやってくれたね、よかったよ」とのささやくようなお声が聞こえてきそうでした。

私はこの記念の日にハンドベルの仲間に入れて頂き、河合さん、佐藤さんのご指導のもと心を一つにして演奏できた事は大きなお恵みでした。佐藤さんがまとめて下さった「カノン」は聖堂の高い天井に美しく響きました。尾崎さんのグレゴリオ聖歌の澄んだ歌声には一同魅了されました。ごミサのオルガンのほかにフルートや歌声が流れて聖堂はひととき和やかな雰囲気

に包まれました。実行委員会の皆様のはじめ、全ての準備に当たって下さった方々に心より感謝申し上げます。地域に根付く番町教会らしさを大切に、これからも発展されますよう、また神様の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。



中段は会議室に飾られた写真、下段はハンドベルの演奏

訃報

聖ドミニコ修道女会 シスターベルナデッタ渡部マツ子



1948年7月23日 愛媛県伊予市に誕生
1966年4月10日 郡中教会にて受洗
1968年4月05日 聖ドミニコ宣教師修道女会入会
1970年10月10日 初誓願 宣立

その後聖マルチン病院付属看護学院、さらに国立療養所香川小児病院付属看護学校を卒業し、優れた看護師として、坂出の聖マルチン病院で41年間、また、小豆島の特別養護老人ホーム「マリアの園」の看護師として6年間勤めました。

今年4月に松山修道院に赴任し、聖堂係や看護係を担当し、高齢者や、病める人、弱い人に対し、心を込めて温かい世話をあたられていました。

彼女は「教皇フランシスコの事務室の入り口に貼っている言葉『嘆き禁止・あなたと他の人々の人生がより良いものとなっていくように、自ら行動しなさい』という言葉にひかれ、毎日これを実践するように努めています。」と話していました。亡くなる当日までお元気に姉妹のお世話をしていましたが、夕方体調が悪くなり、救急車で県立中央病院に運ばれ、医師の懸命な救命処置にもかかわらず、急性心臓死により、8月28日18時12分に74歳で神の国に召されました。52年の修道生活でした。

松山修道院聖堂にて、8月29日にお通夜、30日に葬儀ミサが行われました。

彼女の安らかに憩われますように!



百周年記念ミサの Youtube配信